

都市再生整備計画 事後評価シート  
高山市中心市街地地区

令和2年3月

岐阜県高山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県	市町村名	高山市	地区名	高山市中心市街地地区			面積	約177ha
交付期間	平成26年度～平成30年度	事後評価実施時期	平成31年度	交付対象事業費	2575.7百万円	国費率	0.448		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	地域生活基盤施設(スポット、駐車場、駐輪場)、高質空間形成施設(駅前広場)、高質空間形成施設(公衆トイレ)、既存建造物活用事業(観光交流センター)、土地区画整理事業							
	提案事業	景観重要建造物等修景事業、車両進入規制実験事業、公衆無線LAN整備実験事業							
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし						
		提案事業	なし						
新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(駐輪場、情報板)、高質空間形成施設(自由通路)、高質空間形成施設(公衆トイレ)、高次都市施設(観光案内所)	高山駅周辺整備を一体的に実施することにより交通結節点の機能強化を図るため追加			影響なし			
	提案事業	塀等設置補助事業、生け垣等設置補助事業、高山の景観にふさわしい看板設置補助事業、高山の景観にふさわしい駅舎修景整備事業、	景観の向上に資する事業により地区の魅力の向上を図るため追加			影響なし			
	当初	平成26年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
	変更	なし							

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	従前値	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	高山駅周辺交通機関利用者数	人/年	1,552,563	H25	1,630,000	H30		1,634,497	○	あり なし	交通結節点の機能強化や景観の向上など地区の魅力向上の効果による。	
指標2	中心市街地(商店街形成区域)の営業店舗数	件	365	H25	365	H30		357	△	あり なし	来訪者の増加により営業店舗の減少傾向に一定の歯止めはかかっている。	令和3年4月
指標3	飛騨高山まちの博物館利用者数	人/年	183,304	H25	218,000	H30		195,859	△	あり なし	隣接地におけるまちの体験交流館の整備等が利用者数の増加につながった。	令和3年4月
指標4										あり なし		
指標5										あり なし		

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	従前値	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	年間観光客入込者数(高山地域のみ)	千人	2,989	H25				3,448			景観の向上など地区の魅力の向上や外国人観光客の受入れ体制強化等による。	
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4)定性的な効果発現状況 良好な景観形成に関する事業を推進する中で、地域住民や事業者の景観に対する意識の醸成が図られている。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	実施内容	実施状況	実施状況	
	住民参加プロセス	観光交流センターの整備に関する住民説明会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	観光交流センター(飛騨高山まちの体験交流館)の体験・実演事業については、飛騨・高山観光コンベンション協会に委託することで、市と民間の連携により利用促進を図る。
	持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり会社の人員体制の確保	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	市とまちづくり会社との連携強化により、空き店舗活用やイベント開催など、中心市街地の賑わい創出に向けた取り組みを推進する。

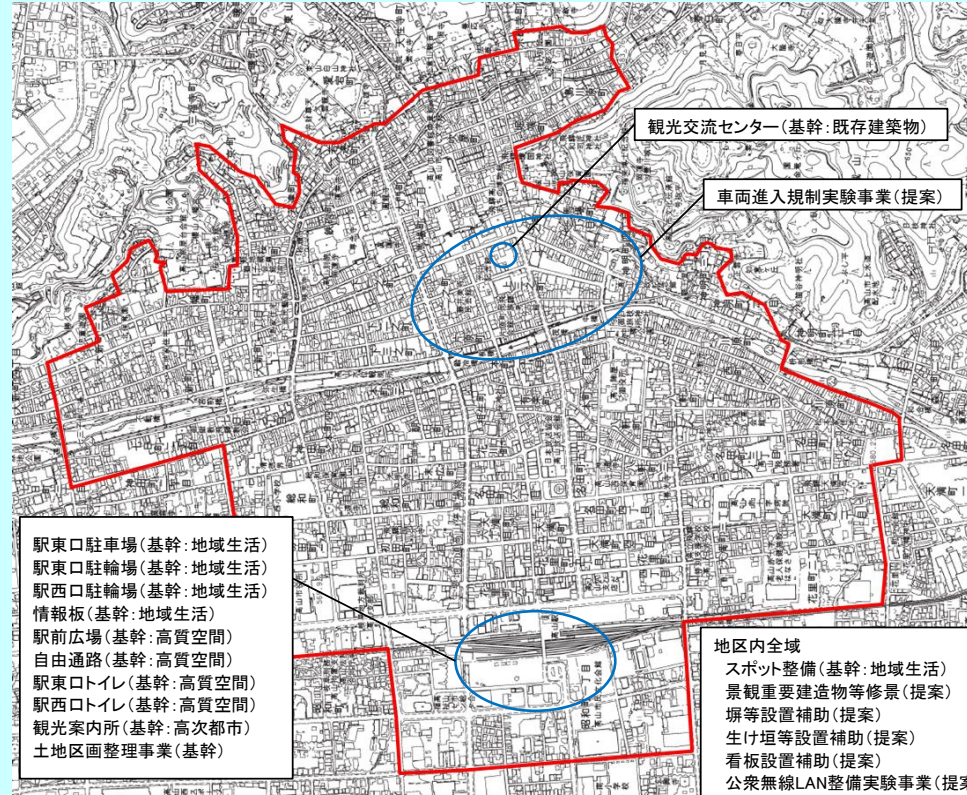
## 様式2-2 地区の概要

### 高山市中心市街地地区(岐阜県高山市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
○高山駅周辺地区の拠点機能を強化するとともに、歴史的資源と伝統文化を活用した町並空間を創出し、飛騨地域の中心都市としてふさわしい「賑わい」や「活力」にあふれた個性のあるまちづくりを推進する。 ・交通結節点としての機能の充実を図り、利便性が高く賑わいのある駅前空間を創出する。 ・個人的な歴史的景観の形成を図るとともに、来訪者の回遊性の向上と交流人口の拡大を推進し、まちなかの活性化を図る。 ・市民等のコミュニティ活動、観光客との交流の場となる拠点施設の整備を行い、活力あるまちづくりを推進する。	高山駅周辺交通機関利用者数	単位:人/年	1,552,563 H25	1,630,000 H30	1,634,497 H30
	商店街形成区域の営業店舗数	単位:件	365 H25	365 H30	357 H30
	飛騨高山まちの博物館利用者数	単位:人/年	183,304 H25	218,000 H30	195,859 H31



高山駅周辺整備の完了状況



観光交流センター(飛騨高山まちの体験交流館)



観光案内所



スポット整備(宮川沿い)

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山駅周辺整備事業が完了し、交通結節点の機能充実や利便性の向上により、賑わいの創出が図られた。</li> <li>・まちかど休憩スポットの整備やまちなかの景観改善、公衆無線LAN整備などにより、来訪者の増加と回遊性の向上が図られた。</li> <li>・飛騨高山まちの体験交流館の整備によって中心市街地に新たな魅力が加わり、賑わいの創出が図られた。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主たる基盤整備はほぼ達成されたため、今後は活用の推進による賑わいや、二次交通の充実による利便性の向上を図る。</li> <li>・良好な景観の創出による歩行環境の整備や新たな歩行動線の確保を図る。</li> <li>・主たる施設整備はほぼ達成されたため、今後は活用の推進により賑わいの創出を図る。</li> <li>・二次交通の充実や外縁部駐車場の活用などにより、観光エリアへの自家用車の流入を抑制し、歩行者の安全確保を図る。</li> <li>・中心市街地の魅力や価値を高めるための施策について、まちづくり会社と連携して取り組むとともに、商店街や居住者への支援の充実を図る。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤施設(広場)	スポット整備事業	50	再整備8箇所 新規整備4箇所	30	再整備5箇所 新規整備2箇所	整備箇所の減に伴う事業費減	影響なし	●	
地域生活基盤施設(駐車場)	駅東口駐車場整備事業	13	A=550㎡	43	A=550㎡	用地取得が必要となったことによる 事業費増	影響なし	●	
地域生活基盤施設(駐輪場)	駅東口駐輪場整備事業	100	A=300㎡	100	A=300㎡	なし	-	●	
地域生活基盤施設(駐輪場)	駅西口駐輪場整備事業	-	なし	60	A=300㎡	平成27年度に計画変更して追加	影響なし	●	
地域生活基盤施設(情報板)	高山駅東西線(自由通路)デジタルサイネージ整備事業	-	なし	10		平成29年度に計画変更して追加	影響なし	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	駅前広場整備事業	500	東口:A=5500㎡ 西口:A=3400㎡	766	東口:A=5500㎡ 西口:A=3400㎡	詳細設計の結果による事業費増	影響なし	●	
高質空間形成施設(緑化施設等)	高山駅東西線(自由通路)整備事業	-	なし	200	修景:モニュメント	平成26年度に計画変更して追加	影響なし	●	
高質空間形成施設(障害者誘導施設等)	駅東口公衆トイレ整備事業	40		40		なし	-	●	
高質空間形成施設(障害者誘導施設等)	駅西口公衆トイレ整備事業	-	なし	100		平成27年度に計画変更して追加	影響なし	●	
高次都市施設(観光交流センター)	観光案内所整備事業	-	なし	60	A=50㎡	平成26年度に計画変更して追加	影響なし	●	
既存建造物活用事業(観光交流センター)	旧森邸等整備事業	300		370		詳細設計の結果による事業費増	影響なし	●	
土地区画整理事業	高山駅周辺土地区画整理事業	646		455		資金計画の再精査の結果による事業費減	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	基準 年度	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
					基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	値	評価	あり	なし		
指標1	高山駅周辺交通機関利用者数	人/年			1,552,563	H25	1,630,000	H30	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み	●	1,634,497	事後評価	○		
指標2	中心市街地(商店街形成区域)の営業店舗数	件	397	H15	365	H25	365	H30	モニタリング			モニタリング				●
									事後評価	確定見込み	●	357	事後評価	△		
指標3	飛騨高山まちの博物館利用者数	人/年			183,304	H25	218,000	H30	モニタリング			モニタリング				●
									事後評価	確定見込み	●	195,859	事後評価	△		
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	鉄道乗降者数は減少傾向にあるものの、高速バス利用者数については来訪者の増加による増便により大幅に増加しており、目標を達成することができた。	
指標2	従前値の維持を目指したが、人口減少や担い手不足による営業店舗数の減少が続いており、目標は達成できなかった。一方で、近年の来訪者の増加により、減少傾向に一定の歯止めがかかっているといえる。	当初の調査エリアである中心市街地の範囲が平成27年度から変更になったことにより、従前値と確定値との比較ができないため、従前から調査エリアに変更がない商店街形成区域の営業店舗数を指標とすることにした。
指標3	目標達成には至らなかったが、隣接地における飛騨高山まちの体験交流館の整備(平成30年7月開館)との相乗効果により、利用者数が増加傾向にある。	目標年度は平成30年度としていたが、豪雨災害によるJR線の長期運休等に伴う来訪者の減少で、この年の利用者数が特異的に減少したため、平成31年度の利用者数を確定値とした。
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	年間観光客入込者数(高山地域のみ)	千人	観光課が毎年実施している観光客入込者数調査を活用。	3,008	H15	2,989	H25	モニタリング			指標2、指標3は達成していないものの、景観の改善や交通結節点の機能充実の効果は確実にあったと思われ、年間観光客入込者数の増加により地区の活性化を説明する。	指標2、指標3を補完して、地区の活性化を説明する。
								事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

良好な景観形成に関する事業を推進する中で、地域住民や事業者の景観に対する意識の醸成が図られている。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
観光交流センターの整備に関する住民説明会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】計4回 【実施時期】平成27年度～30年度 【実施結果】伝統工芸等の体験・実演事業の運営方法等について、地域住民や関係団体の意見を聞いたことにより、持続的な運営体制の構築に寄与した。	観光交流センター(飛騨高山まちの体験交流館)の体験・実演事業については、飛騨・高山観光コンベンション協会に委託することで、市と民間の連携により利用促進を図る。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
まちづくり会社の人員体制の確保	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● これまで専従の職員が配置されていなかったが、市職員を派遣するなど人員体制を充実させ、具体的な事業展開の推進を図った。	株式会社まちづくり飛騨高山	市とまちづくり会社との連携強化により、空き店舗活用やイベント開催など、中心市街地の賑わい創出に向けた取り組みを推進する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討会)	関係各課主幹級職員(都市計画課、文化財課、海外戦略課、商工課)	第1回 令和2年2月13日 第2回 令和2年3月26日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1		その他の数値指標1					
指標名		高山駅周辺交通機関利用者数		年間観光客入込者数(高山地域のみ)					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設(広場)	○	高山駅周辺土地区画整理事業に関連した高山駅東西自由通路や駅前広場、駐車場等の整備を実施したことによる交通結節点の機能充実のほか、観光交流センター(飛騨高山まちの体験交流館)の整備や景観の改善などによるまちの魅力の向上、外国人観光客向けの公衆無線LAN整備などにより、来訪者が増加し、地区の活性化が図られた。	○	観光交流センター(飛騨高山まちの体験交流館)の整備や景観の改善などによるまちの魅力の向上、外国人観光客向けの公衆無線LAN整備などにより、来訪者が増加し、地区の活性化が図られた。				
	地域生活基盤施設(駐車場)	◎		○					
	地域生活基盤施設(駐輪場)	◎		-					
	地域生活基盤施設(情報板)	◎		○					
	高質空間形成施設(緑化施設等)	◎		-					
	高質空間形成施設(障害者誘導施設等)	◎		-					
	高次都市施設(観光交流センター)	◎		○					
	既存建造物活用事業(観光交流センター)	○		◎					
提案事業	土地区画整理事業	◎	-						
	景観重要建造物等修景事業	○	より来訪者が増加し、交通機関利用者の増加につながった。	◎					
	塀等設置補助事業	○		○					
	生け垣等設置補助事業	○		○					
	高山の景観にふさわしい看板設置補助事業	○		◎					
	高山の景観にふさわしい駅舎修景整備事業	◎		◎					
車両進入規制実験事業	△	△							
関連事業	公衆無線LAN整備実験事業	○	◎						
	JR高山駅東西自由通路整備(駅舎補償含む)	◎	-						
	高山駅周辺土地区画整理事業	◎	-						

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	令和2年度より、市街地を循環する観光特化型バスを新たに運行し、二次交通の利便性を高めることで、交通機関の更なる利用促進を図る。	飛騨高山まちの体験交流館における催し物等の充実やまちの景観の向上等により、来訪者の更なる増加を図る。		
-------	---	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標3								
指標名		中心市街地(商店街形成区域)の営業店舗数			飛騨高山まちの博物館利用者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設(広場)	△	人口減少や担い手不足による営業店舗数の減少が続いているものの、観光交流センター(飛騨高山まちの体験交流館)の整備や景観の改善などによるまちの魅力の向上により来訪者が増加したことで、減少傾向に一定の歯止めがかかっていることは評価できる。	I	△	期待より利用者数は伸びなかったものの、隣接地における飛騨高山まちの体験交流館の整備やまちの景観の向上などによる来訪者の回遊性の向上が、利用者数の増加につながっていることは評価できる。	I						
	地域生活基盤施設(駐車場)	-											
	地域生活基盤施設(駐輪場)	-											
	地域生活基盤施設(情報板)	△											
	高質空間形成施設(緑化施設等)	-											
	高質空間形成施設(障害者誘導施設等)	-											
	高次都市施設(観光交流センター)	△											
	既存建造物活用事業(観光交流センター)	△											
提案事業	土地区画整理事業	-											
	景観重要建造物等修景事業	△											
	塀等設置補助事業	△											
	生け垣等設置補助事業	△											
	高山の景観にふさわしい看板設置補助事業	△											
	高山の景観にふさわしい駅舎修景整備事業	-											
関連事業	車両進入規制実験事業	x			x								
	公衆無線LAN整備実験事業	△			△								
	JR高山駅東西自由通路整備(駅舎補償含む)	-			-								
	高山駅周辺土地区画整理事業	-			-								

※目標未達成への影響度

- x x: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- x: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>まちなかの回遊性を高めるための歩行環境の整備や賑わい創出施設の整備、まちづくり会社と連携した空き店舗活用やイベント、ワークショップの開催などにより、営業店舗数の増加を促進する。</p>	<p>まちの博物館及びまちの体験交流館における催し物等の充実、高山駅から施設周辺を結ぶ道路の無電柱化等による歩行環境の整備などにより、施設利用の促進を図る。</p>
------------------	---	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(事後評価検討会)	関係各課主幹級職員(都市計画課、文化財課、海外戦略課、商工課)	第1回 令和2年2月13日 第2回 令和2年3月26日	都市計画課(都市再生整備計画事業担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
利便性が高く、賑わいと活力にあふれる、交通結節点としての駅前空間の創出	・高山駅周辺整備事業が完了し、交通結節点の機能充実や利便性の向上により、賑わいの創出が図られた。		
歴史的な町並みや景観を活かした整備による、来訪者の回遊性の向上や交流人口の拡大	・まちかど休憩スポットの整備やまちなかの景観改善、公衆無線LAN整備などにより、来訪者の増加と回遊性の向上が図られた。	・観光エリアにおける車両進入制限については、事前調査業務は行ったものの、地域住民との協議の難航により実験事業の実施には至らなかったため、今後も継続的に対応を検討する必要がある。	
中心市街地空洞化の進行に対応する、新たな魅力創出による活力あるまちづくり	・飛騨高山まちの体験交流館の整備によって中心市街地に新たな魅力が加わり、賑わいの創出が図られた。	・観光スポットの周辺については空き店舗が少ないが、そこから離れた商店街では依然として空き店舗が多い。 ・中心市街地全体の問題として、少子高齢化により、居住者が減少している。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	駅前空間の利便性と賑わいの持続	主たる基盤整備はほぼ達成されたため、今後は活用の推進による賑わいや、二次交通の充実による利便性の向上を図る。	・市街地を循環する観光特化型バスの新たな運行 ・駅西交流広場を活用したイベント等の開催
	まちなかの回遊性と交流人口の維持	良好な景観の創出による歩行環境の整備や新たな歩行動線の確保を図る。	・無電柱化や修景等による歩行環境の整備 ・宮川人道橋や宮川左岸賑わい創出施設の整備 ・良好な景観創出に係る整備に対する支援
	中心市街地の賑わいの維持	主たる施設整備はほぼ達成されたため、今後は活用の推進により賑わいの創出を図る。	・まちの博物館及びまちの体験交流館における催し物等の充実

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	観光エリアにおける交通混雑の解消と歩行者の安全確保	二次交通の充実や外縁部駐車場の活用などにより、観光エリアへの自家用車の流入を抑制し、歩行者の安全確保を図る。	・市街地を循環する観光特化型バスの新たな運行 ・外縁部駐車場の利用促進 ・観光エリアへの車両進入制限
	中心市街地における空き店舗の減少と居住者の増加	中心市街地の魅力や価値を高めるための施策について、まちづくり会社と連携して取り組むとともに、商店街や居住者への支援の充実を図る。	・まちづくり会社と連携した空き店舗活用やイベント、ワークショップ等の開催 ・商店街の自主的な取り組みへの支援 ・まちなか居住(住宅の新築・改築など)に対する支援

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	高山駅周辺交通機関利用者数	人/年	1,552,563	H25	1,630,000	H30	確定	●	1,634,497	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標2	中心市街地(商店街形成区域)の営業店舗数	件	365	H25	365	H30	確定	●	357	△	あり	→	令和3年4月	商工課が毎年実施している商店街形成区域の営業店舗数調査により達成状況を確認する。	
							見込み				なし				
指標3	飛騨高山まちの博物館利用者数	人/年	183,304	H25	218,000	H30	確定	●	195,859	△	あり	→	令和3年4月	飛騨高山まちの博物館でカウントする利用者の集計により達成状況を確認する。	
							見込み				なし				
指標4							確定				あり	→			
							見込み				なし				
指標5							確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標1	年間観光客入込者数(高山地域のみ)	千人	2,989	H25	/	/	確定	●	3,448	/	/	→			
その他の数値指標2							確定				/	→			
							見込み				/				
その他の数値指標3							確定				/	→			
							見込み				/				



### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・例年、調査を実施している事項を指標としたため、新たに計測する必要はなかった。	・目標数値を設定する際には、調査エリア等、調査の対象に変更の可能性があることも考慮して決定する必要がある。
	うまく いかなかった点	・中心市街地の営業店舗数について、都市再生整備計画の作成時の調査エリアが平成27年度に変更となり従前値と確定値の比較ができなかったため、従前から調査エリアに変更のない商店街形成区域の営業店舗数を指標に用いることとした。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)



## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和2年2月21日～3月23日	令和2年2月21日～3月23日	担当課への持参、郵送、FAX、電子メール	都市計画課 (都市再生整備計画事業担当課)
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

# 都市再生整備計画

たかやましちゅうしんしがいちちく  
高山市中心市街地地区(第5回変更)

ぎふけん たかやまし  
岐阜県 高山市

平成29年7月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	ちかやま 高山市	地区名	たかやましちゅうしんしがいきま 高山市中心市街地地区	面積	約177 ha
-------	-----	------	-------------	-----	-------------------------------	----	---------

計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度
------	---------------------	------	---------------------

### 目標

- 高山駅周辺地区の拠点機能を強化するとともに、歴史的資源と伝統文化を活用した町並空間を創出し、飛騨地域の中心都市としてふさわしい「賑わい」と「活力」にあふれた個性のあるまちづくりを推進する。
  - ・交通結節点としての機能の充実を図り、利便性が高く賑わいのある駅前空間を創出する。
  - ・個性的な歴史的景観の形成を図るとともに、来訪者の回遊性の向上と交流人口の拡大を推進し、まちなかの活性化を図る。
  - ・市民等のコミュニティ活動、観光客との交流の場となる拠点施設の整備を行い、活力あるまちづくりを推進する。

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

- 本地区は、高山市中心市街地活性化基本計画に位置づけている中心市街地地区であり、古い町並みなど歴史文化資源を数多く有する観光エリア、飛騨地方の玄関口であり公共交通の拠点となっている高山駅周辺エリア、商店街と官公庁等が立地する商業・業務エリアが含まれている。
- 観光エリア(城下町区域)は認定歴史的風致維持向上計画の重点区域に設定されており、歴史文化資源を活かしたまちづくりを進めている。
- 高次商業拠点の形成を図ることを目的とした「高山駅周辺土地区画整理事業」を平成10年に都市計画決定し、都市計画道路、区画道路の整備や移転補償などを進めている。
- 第1期計画では、駅周辺土地区画整理事業によりアンダーパスが整備され、分断されていた駅東西の自動車交通の動線が確保された。今後、東西自由通路や駅舎の整備が予定されており、交通結節点として各種機能が集積した利便性が高く賑わいのある駅前空間の整備が求められている。
- 第1期計画の事後評価結果では、バリアフリー道路整備、消融雪側溝整備、障がい者移動支援施設整備等の事業実施により、歩行者が安全に安心して歩ける歩行空間が確保され、住民アンケートによる歩行環境満足度が高まっている。また、まちなかを歩いて楽しめる環境の整備により、中心市街地における回遊性が高まりつつあるが、今後も歴史的な景観や資源を活かした整備により更なる回遊性の向上や交流人口の拡大を図り、まちなかの活性化につなげることが求められている。
- まちなか居住の推進や空き店舗の活用事業に取り組んでいるものの、居住者の郊外移住や少子高齢化などにより中心市街地の人口減少や空き店舗数の増加が進んでおり、その対策が求められている。

#### 課題

- 利便性が高く、賑わいと活力にあふれる飛騨の玄関口にふさわしい交通結節点としての駅前空間の整備が必要である。
- 歴史的な町並みや景観を活かした整備を更に推進し、来訪者の回遊性の向上や交流人口の拡大によるまちなかの活性化が必要である。
- 人口の減少や空き家・空き店舗の増加など中心市街地の空洞化が進行しているため、新たな魅力による活力あるまちづくりが必要である。

#### 将来ビジョン(中長期)

- 高山駅周辺において都市計画道路や駅前広場等の公共施設の整備、商業・業務施設の拠点的な整備、良好な住環境の整備など飛騨の玄関口としてふさわしい拠点の形成をすすめる。(高山市第七次総合計画)
- 世界、全国、全市域をつなぐ交流の結節点であり、新たな市民活動の場や観光交流施設の整備を推進し、市の多文化交流の拠点として、賑わいのある中心市街地の形成を図る。(高山市中心市街地活性化基本計画)
- JR高山駅から三町筋にかけての商業・業務集積地は「表玄関」として位置づけられる地区であるため、商業機能、情報発信機能、文化交流機能などを備えた質の高い商業・業務拠点地区としての形成に努める。(高山市都市基本計画)

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
高山駅周辺交通機関利用者数	人/年	年間の高山駅鉄道乗降者数及び高山発着高速バス利用者数	まちの賑わいや駅周辺の利便性の度合いを表すもので、乗降者数及び利用者数の増加を目標とする。	1,552,563	H25年度	1,630,000	H30年度
中心市街地の営業店舗数	件	中心市街地における店舗・事業所・サービス関連施設等の件数	地区の利便性や、賑わいの度合いを表すもので、地区内における店舗、事業所、サービス関連施設等の件数の現状維持を目標とする。	2,139	H25年度	2,139	H30年度
飛騨高山まちの博物館利用者数	人/年	年間の飛騨高山まちの博物館利用者数	周遊の基点や交流の拠点としての集積度を表すもので、利用者数の増加を目標とする。	183,304	H25年度	218,000	H30年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>交通結節点としての機能の充実を図り、利便性が高く賑わいのある駅前空間を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種機能が集積し、利便性や質の高い拠点となるよう高山駅周辺土地区画整理事業を推進する。</li> <li>子どもからお年寄りまで多世代の市民及び観光客が憩い、佇み、楽しめるよう、公園的な機能を有した駅前広場を整備する。</li> <li>飛騨地方の玄関口としてふさわしいJR高山駅舎建替や自由通路、観光案内所等の一体的な整備により、交通結節点としての機能の充実を図る。</li> </ul>	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業:高山駅周辺土地区画整理事業</li> <li>地域生活基盤施設(駐車場):駅東口駐車場整備事業</li> <li>地域生活基盤施設(駐輪場):駅東口駐輪場整備事業</li> <li>地域生活基盤施設(駐輪場):駅西口駐輪場整備事業</li> <li>地域生活基盤施設(情報板):高山駅東西線(自由通路)デジタルサイネージ整備事業</li> <li>高質空間形成施設(緑化施設等):駅前広場整備事業</li> <li>高質空間形成施設(緑化施設等):高山駅東西線(自由通路)整備事業</li> <li>高質空間形成施設(障害者誘導施設等):駅東口公衆トイレ整備事業</li> <li>高質空間形成施設(障害者誘導施設等):駅西口公衆トイレ整備事業</li> <li>高次都市施設(観光交流センター):観光案内所整備事業</li> </ul> <p>□提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域創造支援事業:高山の景観にふさわしい駅舎修景整備事業</li> </ul> <p>○関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路:JR高山駅東西自由通路整備</li> <li>道路(効果促進事業):JR高山駅舎修景整備</li> <li>高山駅周辺土地区画整理事業</li> </ul>
<p>個性的な歴史的景観の形成を図るとともに、来訪者の回遊性の向上と交流人口の拡大を推進し、まちなかの活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちかどにおいて、市民や観光客の憩いの場となる休憩スポットを整備する。</li> <li>歴史的景観を保全するため、景観重要建造物の修景整備や市街地景観保存区域内の建築物の新築・改築等に要する経費の補助を行う。</li> <li>歴史的景観を保全するため、景観重点区域内において道路や河川に面するまたは道路や河川から眺望できる塀等の設置に要する経費の補助を行う。</li> <li>町並景観及び環境の向上を図るため、道路に面するまたは道路から眺望できる生け垣の設置に要する経費の補助を行う。</li> <li>歴史的景観を保全するため、高山の景観にふさわしい看板の設置及びふさわしくない看板の撤去に要する経費の補助を行う。</li> <li>中心市街地において、無料でインターネットが使えるWi-Fi環境を整備する。</li> <li>観光エリアへの車両進入規制など、観光客が快適に滞在したりまちなかを散策できるよう対策を図る。</li> </ul>	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活基盤施設(広場):スポット整備事業</li> <li>既存建造物活用事業(観光交流センター):旧森邸等整備事業</li> </ul> <p>□提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域創造支援事業:景観重要建造物等修景事業</li> <li>地域創造支援事業:塀等設置補助事業</li> <li>地域創造支援事業:生け垣等設置補助事業</li> <li>地域創造支援事業:高山の景観にふさわしい看板設置補助事業</li> <li>まちづくり活動推進事業:車両進入規制実験事業</li> <li>まちづくり活動推進事業:公衆無線LAN整備実験事業</li> </ul>
<p>市民等のコミュニティ活動、観光客との交流の場となる拠点施設の整備を行い、活力あるまちづくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民や観光客の交流の場となる観光交流センター等を整備する。</li> </ul>	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存建造物活用事業(観光交流センター):旧森邸等整備事業</li> <li>地域生活基盤施設(広場):スポット整備事業</li> </ul>
<p>その他</p>	



都市再生整備計画の区域

<p>高山市中心市街地地区(岐阜県高山市)</p>	<p>面積 約177 ha</p>	<p>区域 宗献寺町、天性寺町、愛宕町、若達町、島川原町、堀端町、馬場町、吹屋町、大門町、鉄砲町、神明町、上一之町、下一之町、上二之町、下二之町、上三之町、下三之町、片原町、左京町、桜町、八幡町、大新町、上川原町、川原町、西町、本町、八軒町、有楽町、相生町、花川町、名田町、天満町、花里町、朝日町、末広町、七日町、神田町、総和町、初田町、花岡町、昭和町</p>
---------------------------	-------------------	--

